# 国指定史跡武田氏館跡（味噌曲輪地点）

永正16年（1519）、武田信虎が石和の川田館（現甲府市川田町）から、三方を山に囲まれ天然の要害を形成していた相川扇状地開析部に新たに居館を築き、家臣や国衆を館の周囲に集住させ、新たな府中建設を開始しました。この居館が一般に「躑躅が崎館」と呼ばれ、現在の国指定史跡武田氏館跡の中枢となります。武田氏の拠点は、一時、武田勝頼による新府城（韮崎市）築城により移転しますが、戦国大名武田氏滅亡後に再び躑躅が崎館は利用されます。織田氏から徳川氏、豊臣氏へと領主が変わる中、慶長年間に一条小山に築かれた甲府城が完成するまでの間、躑躅が崎館は梅翁曲輪の増設、天守台の築造などの改修を繰り返し、現在の武田氏館跡へと変遷を遂げます。

（甲府市教育委員会）